

神奈川と静岡の未来をひらく 伊豆湘南道路

伊豆湘南道路 概要

神奈川県西部地域と静岡県東部地域の圏域は、海・山に囲まれた豊かな自然環境のもと、多くの観光客が訪れる日本有数の観光地です。両県を結ぶ主な道路は、箱根越えの国道1号と海岸線の国道135号ですが、両路線とも行楽シーズン等には慢性的な渋滞が発生しています。また国道1号は積雪、国道135号は高波等の自然災害により、たびたび通行止め等が発生するなど、両県を結ぶ道路環境は大変脆弱であり、観光振興や市民生活に支障をきたしています。箱根周辺的高速道路網としては、北側には東名高速道路、新東名高速道路がある一方、南側には高規格道路がなくミッシングリンクとなっています。

これらの課題を打開し、広域的な効果をもたらす道路ネットワークとして構想されているのが、神奈川県西部地域と静岡県東部地域を箱根の南回りにつなぐ「伊豆湘南道路」です。

期待される効果

本道路が実現し、神奈川県側で小田原厚木道路や西湘バイパスと接続され、静岡県側で伊豆縦貫自動車道と接続されれば、日本の大動脈の東名高速道路、新東名高速道路と並ぶ、まさに「第3の東名」とも言える広域的な東西軸が誕生します。これにより利便性が飛躍的に向上するとともに、沿線都市の発展にも大いに寄与するものと期待されています。

さらに、近年頻発する豪雨や今後発生が懸念される南海トラフ地震、神奈川県西部地震等の巨大地震、富士山噴火などの災害時には、この道路が多くいのちを守る生命線となります。このように、防災、観光、物流、医療等、様々な分野で大きな効果が期待されています。

実現に向けた取組

本道路の早期実現を目指し、関係市町等で「伊豆湘南道路建設促進期成同盟会」を設立し、精力的かつ継続的に国土交通省等へ要望活動を実施しています。

令和6年度には小田原市が会長市となり、期成同盟会の設立後初めて国土交通大臣と財務大臣に直接面談し、必要性を訴えました。また関係市町や経済界等と連携しながら、シンポジウムの開催等によって地元住民の機運の醸成に努め、いのちを守る伊豆湘南道路の実現を目指し活動しています。



2018年の台風12号の高波により、国道135号（小田原市江之浦）で大破した救急車



伊豆湘南道路の構想中の区間。沿線都市の利便性向上だけでなく、災害に強いネットワークとしての役割も期待されている。（出典：広報おだわら令和7年8月号）



関連市町と連携した国土交通大臣への要望活動（令和7年2月）



【伊豆湘南道路PR動画】
これぞ「第3東名」!!
伊豆湘南道路建設促進期成同盟会
（YouTube小田原市公式チャンネル）